

サモアの復興 後押し



サモアOB会ブース前で義援金を呼びかける大塚さん(右)＝日比谷公園で

日比谷公園

南太平洋のサモア諸島沖の地震による津波で被災したサモア独立国を支援しようと、サモアで活動経験を持つ青年海外協力隊OBらが3日、千代田区の日比谷公園で開催中の国際協力イベント「グローバルフェス

青年協力隊OBら募金活動

タJAPAN2009」で義援金を呼びかけた。募金活動を始めたのは、

「青年海外協力隊サモアOB会」。1994年の結成で、サモアからの帰国隊員や国際協力機構(JICA)関係者らが集まり、日本とサモアの友好促進のための活動などを行っている。義援金は在日サモア独立国大使館を通じて、同国政府の復興担当部門に渡される。会長でシステムエンジニアの大塚一雄さん(47)も89年から2年間、サモアで銀行のシステム開発にあたったことがあり、津波被害の大きかったウポル島南東部の村々もよく知っているという。「サモアの人たちが、陽気で明るい人柄を取り戻せるよう、復興の役に立ち

たい」と話す。

「グローバルフェスタ」は4日も午前10時～午後5時まで開催。入場無料。サモアOB会の義援金につい

ての問い合わせは、同会ウェブサイト(<http://www.w.fafetai.net/>)へ。サモアで活動する隊員の被災地報告も掲載している。